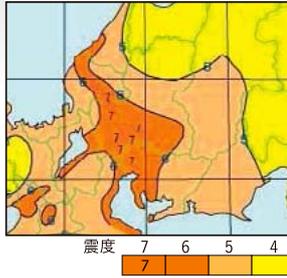


過去の災害を知り、将来に備え、

濃尾地震

国内の陸域で発生した過去最大の直下型地震。根尾谷断層がある根尾村水鳥地区では、上下差6m横ずれ量4mのズレが発生した。

- 規模 M8.0 ※M=マグニチュード
- 死者数 全体：7,273人、市内 187人
- 負傷者数 全体：17,175人、市内 801人



アンケート調査結果をまとめた濃尾地震の震度分布
※村松(1976)による図面をもとに作成し、Webサイト「濃尾地震と根尾谷断層」に掲載



破壊された名古屋郵便電信局
※写真出典：濃尾震災写真帖(名古屋市博物館所蔵)

中区の被害 当時としては堅牢な造りと言われていたレンガ造りの名古屋郵便電信局(現在の栄三丁目)が一瞬で崩落した(写真右)。これにより、死者6人、負傷者4人。また、大須観音近くの北野新地(遊郭街)や、名古屋城にも大きな被害が出た。

伊勢湾台風 (1959年台風15号)

室戸台風や、枕崎台風とあわせ、昭和の三大台風に挙げられる。明治以降の台風においては最大の被害をもたらした。この台風を教訓として、災害対策基本法が成立した。

- 上陸日時 1959(昭和34)年9月26日午後6時頃
- 上陸地 和歌山県潮岬の西
- 規模 894hpa(最大時)、925hpa(上陸時) ※hpa=ヘクトパスカル
- 死者数 全国：4,697人、市内 1,851人、中区2人
- 最大風速 75 m/s(最大時)、60 m/s(上陸時)



中区の被害 人的被害が死者2人、負傷者1,921人、他にも家屋の被害が735件発生した。

体験談

大須に住むAさん(70代の男性)

「私は高校二年生でした。夕方台風が来て、雨戸が外れかけたので、それを押さえていました。家の瓦が飛んだのは一枚でしたが、浮いて使い物にならなくなっていました。台風が去り2日経ってから学校に行きましたが、その時に大変な災害だったんだと知りました。」

富士見町に住むBさん(70代の女性)

「私は中学生でした。家の土壁が10センチも20センチも揺れ、壁が抜けないように姉と父が必死に壁を押さえていました。風が治まったので外に出てみると、近所の二階建ての家の壁や窓が抜けていたのが印象に残っています。」



倒壊したアーケード 中区松坂屋前付近 伊勢湾台風 昭和34年9月26日
※写真：名古屋市港防災センター所蔵

東海豪雨

東海地方を中心に、2日間の雨量が500mmを超す等記録的な大雨となり、名古屋市内や周辺でも多数の浸水等被害が生じた。名古屋市を始め21市町に災害救助法が適用された。

- 発生日 2000(平成12)年9月11～12日
- 降水量 428mm(9月平均の2倍)
- 死者数 全体：10人、市内：4人
- 負傷者数 全体：96人、市内47人

中区の被害 中区の被害：床上浸水4棟、床下浸水27棟が発生した。



冠水した道路を通行する車両 名古屋市内

今すべき対策！ 中区

国内の主な災害年表

1707.10.28	宝永地震…推定規模M8.6～9.4。南海トラフ全域を断層破壊し、南海トラフ大地震のモデルとなった。
1854～1858	安政東海地震…規模M8.4、南海トラフ巨大地震の一つで、安政南海地震とともに安政地震と呼ばれる。
1891.10.28	濃尾地震…別欄参照。
1944.12. 7	昭和東南海地震…規模M7.9のプレート境界型巨大地震。死者・行方不明者数1223名。 破壊が浜名湖南東沖辺りで止まり東海地震の震源域が空白域として残ったとされる。
1945. 1.13	三河地震…三河湾で発生したM6.8の直下型地震。愛知県の幡豆郡と碧海郡で死者2,652人に達した。
1959. 9.26	伊勢湾台風…別欄参照。
1995. 1.17	阪神淡路大震災…淡路島北部沖の明石海峡、深さ16kmを震源として兵庫県南部に発生したM7.3の地震。 都市の直下の地震災害であり、死者6,434人、行方不明者3人、負傷者43,792人となった。
2000. 9.11～12	東海豪雨…別欄参照。
2011. 3.11	東日本大震災…太平洋三陸沖を震源とし日本観測史上最大規模M9.0となった3連動型地震。 死者・行方不明者18,000人を超える。高さ40m超の津波被害等とこれに伴う福島第一原子力発電所事故災害と合わせ東日本大震災と呼ぶ。
2016. 4.14	熊本地震…熊本地方を震央とする震源の深さ11km、M6.5の地震。熊本県益城町で震度7が2回、6強が2回、6弱が3回発生した。死者：131人、負傷者：2,337人となった。

中区等都心部における特有の課題

▶ 帰宅困難者問題

2011年(平成23年)の東日本大地震において、震源から遠く離れた東京の主要駅で帰宅困難者が大量発生(約500万人)した。震源地が近ければ、混乱はさらに拡大していた恐れがある。

- ・帰宅困難者の一斉移動行動 → 混乱や怪我人の大量発生等
救出・消火・医療救護活動等への障害

対策

- ①一斉帰宅抑制…従業員や学生、買い物客等の一斉帰宅を抑制し、人的被害を防止
- ②徒歩帰宅支援…余震等が収まった後、徒歩圏内の住民の適切な帰宅を支援

中区の課題 栄、金山と主要な交通結節点における対策や、名駅から流れる徒歩帰宅者支援、また帰宅困難者や徒歩帰宅者の指定避難所(小中学校)への流入対策が必要。



帰宅困難者の滞留及び交通渋滞の様子
※出典：平成24年版警察白書(警察庁)

▶ 長周期地震動問題

2011年(平成23年)の東日本大地震において、震源から遠く離れた東京等で発生した。再開発等により超高層ビル建設が進む都心部では、より多くの被害が発生する恐れがある。

- ・長周期地震動により大きく・長く揺れる
→ 室内の家具や什器が転倒・移動
エレベーターの故障等による逃げ遅れ



短い周期の地震動と長周期地震動による揺れの違い

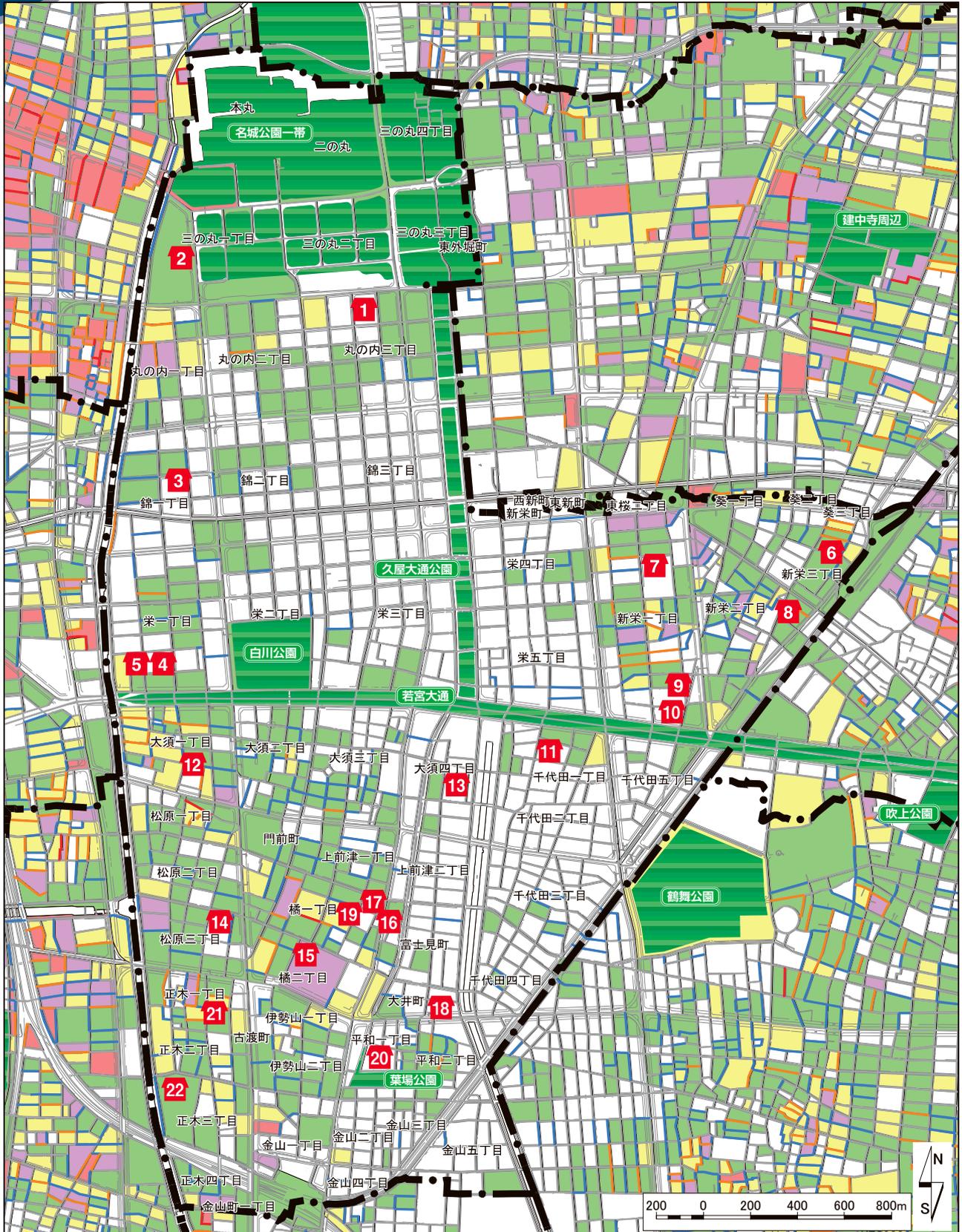
※気象庁HPより

対策

- ①室内の家具や什器等の固定 … 高層階に行くほど発生率が高くなる家具の転倒や落下・移動を防止
- ②地震発生時にエレベーターを控える … エレベーターの閉じ込め事故や、ワイヤーの損傷などの事故を防止
使用中に揺れを感じたら、全ての階数のボタンを押し、止まった階で降りること

中区の課題 伏見周辺や栄、金山等において再開発等による超高層ビルの建設が進んでおり、対策が必要。また、エレベーターは危険であり、階段で避難する場合、長時間にわたる大きな揺れへの対策も必要。

あらゆる可能性を考慮した最大クラスの被害想定をもとに評価した建物全壊率及び歩行者通行における道路閉塞率



この図は、平成27年1月に策定された「震災に強いまちづくり方針」により作成したものであり、建物全壊率や道路閉塞率を示した図の情報は名古屋市都市計画情報提供サービスで閲覧・印刷することができます。
 名古屋市都市計画情報提供サービスとは… 名古屋市の都市計画情報等を地図や画像を利用してインターネットで皆様に公開・提供するサイトです。
<http://www.tokei-gis.city.nagoya.jp/>

平常時の心得

過去災害の被害状況や建物倒壊・道路閉塞などの災害危険度の情報、避難所等の位置を確認し、家族会議を開いて話し合う等日頃から防災・減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

指定避難所等の場所を知る。
 ・近くの指定避難所等を確認しておきましょう。

非常持出品・備蓄品を用意する。
 ・水や食糧、携帯用トイレ等の備蓄品を1週間分、そのうち3日分は非常持出品として持ち運びが出来るようにしましょう。



家具を固定する。
 ・家具に押しつぶされたり、避難の妨げとならないよう家具を固定しましょう。

安否確認方法を決めておく。
 ・NTTの災害用伝言ダイヤル「171」や、各携帯電話会社が提供する災害用伝言板サービスを確認しておきましょう。

建物を耐震化する。
 ・昭和56年5月以前に着工した住宅には助成制度があります。

問い合わせ先 **中区役所区政部総務課**
 住所 **名古屋市中区栄四丁目1番8号**
 電話 **(052) 265-2207**

平成29年3月発行

指定避難所一覧

番号	指定避難所名	住所	電話番号
1	名城小学校	丸の内三丁目3-35	962-6662
2	丸の内中学校	三の丸一丁目9-2	211-3251
3	御園小学校	錦一丁目9-1	231-1405
4	栄小学校	栄一丁目28-1	221-8678
5	中スポーツセンター	栄一丁目30-10	232-2327
6	新栄小学校	新栄三丁目15-51	262-0608
7	白山中学校	新栄一丁目15-56	262-0589
8	中文化センター	新栄三丁目32-13	242-1210
9	千早小学校	新栄一丁目44-36	241-3429
10	千早コミュニティセンター	新栄一丁目48-16	269-1841
11	老松小学校	千代田一丁目9-36	241-7770
12	大須小学校	大須一丁目31-4	231-0122
13	前津中学校	大須四丁目8-88	262-7677
14	松原小学校	松原三丁目5-3	331-7297
15	真宗大谷派名古屋別院(東別院)	橋二丁目8-55	321-9201
16	橋小学校	橋一丁目13-12	321-0260
17	中生涯学習センター	橋一丁目7-11	321-5511
18	名古屋市男女平等参画推進センター 名古屋市女性会館(イーブルなごや)	大井町7-25	331-5288
19	橋コミュニティセンター	橋一丁目14-4	265-9080
20	平和小学校	平和一丁目14-3	321-0080
21	正木小学校	正木一丁目17-33	322-4751
22	伊勢山中学校	正木三丁目2-21	331-9568

凡例  広域避難場所

※中区の広域避難場所・指定避難所はすべて指定緊急避難場所に指定されています。

建物倒壊の危険性 (都市計画図より)

-  5%未満
-  5%以上～10%未満
-  10%以上～15%未満
-  15%以上～20%未満
-  20%以上

道路閉塞の危険性 (都市計画図より)

-  20%未満
-  20%以上～40%未満
-  40%以上～70%未満
-  70%以上

マップの見方 (建物倒壊の危険性)

- ・建物構造及び建築年と、被害想定(あらゆる可能性を考慮した最大クラス)において地盤状況を考慮して計算された震度、液状化可能性により、建物が全壊する割合を街区ごとに評価したものです。
- ・全壊率が大きい(赤い色)ほど、建物倒壊の危険性が高くなります。
- ・液状化可能性は、液状化可能性指数(PL値)による液状化面積割合、構造別の支持杭の有無、液状化被害を受ける割合により算定しています。
- ・建物全壊率は街区ごとの平均値であり、街区内の全ての建物が同じ危険性を有しているわけではありません。
- ・色が無い街区(建物全壊率5%未満)においても建物が倒壊する可能性があります。
- ・建物データは、平成23年度建物用途別現況調査に基づきます。
- ・計算手法等の詳細につきましては、震災に強いまちづくり方針の解説(P96)をご覧ください。

※道路閉塞の危険性の図面の見方、評価条件等につきましては、名古屋市都市計画情報提供サービスをご確認ください。